

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

1日

友引 軫

旧3月12日

月曜

妙法蓮華経序品第一

ゆい によ のう しょう ち

唯汝能証知

「唯だ汝のみ能く証知せり」

「汝」は、自分だけではなく人々を救いたいと努力している菩薩たちを指しています。

「証」とは覚る（真理に目覚める）ということ。理解したただけでは覚りに至りません。

理解した上で行動し、その結果が表れてようやく、「証」覚りになるのです。

人々を救いたいと行動している菩薩たちのみが、本当のことを覚っていると、日月灯明仏が語った場面です。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

2日

先負 角

旧3月13日

火曜

妙法蓮華経序品第一

諸しよ法ほう実じつ相そう義ぎ

「諸法実相の義を説く」

科学や哲学は、数値や理論によって現象の背後にある「真実」を解き明かします。

その「真実」がさらに複雑に関係し合い完全に調和した世界が、仏さまが説く「ありのまま真実」「諸法実相」です。

心に迷いがあると、目の前の出来事と「ありのままの真実」と別のものに見えてしまいます。

仏さまと同じように見ればよいのですが、それができないから修行に励むのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

3日

憲法記念日

仏滅 亢

旧3月14日

水曜

妙法蓮華経序品第一

諸しよ仏ぶつ甚じん難なん値ち

「諸仏に値うのは甚だ難しい」

仏さまに値うのは難しく、何千億年もの間に、一度値えるかどうかというほど稀なことです。例えば、大きな街で知人と偶然すれ違ったとしても。でももし、どちらかが一分でも遅れてその場所を歩いていたら、すれ違うことはなかったでしょう。同じように、仏さまの教えと出会うのは難しく有難いことなのです。不思議な縁で仏教に出会ったことを軽々しく考へることなく、大事に学びたいものです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

4日

みどりの日

大安 鬼氏

旧3月15日

木曜

妙法蓮華経序品第一

によ しん じん か めつ

如薪尽火滅

「薪尽きて火の消えるが如く」

仏さまがこの世で説くべきことを説いた後の入滅は、薪が尽きて自然に火が消えるように自然なことであるということです。

いつ死んでも後悔はないように、常に精一杯、力を尽くしているのが仏さまです。

いつかやればよいと先送りしたことが、臨終のときになって、あの時やっておけばよかったと後悔になってしまいかもしれません。いつか来るその時に後悔しないように。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

5日

こどもの日

赤口 房

旧3月16日

金曜

妙法蓮華経序品第一

とう

けん

む

しゆ

ぶつ

当見無数仏

「まさに無数の仏に見たてまつるべし」

同じ「みる」でも、「観」は集中して観ること、「見」は無意識に見えてくること、と意味が違います。

「見仏」|| 無数の仏に見(まみ)えるとは、今自らが仏さまとともにあり、無意識に仏さまと同じ視線で見るということです。

無理に観ようと意識しなくても、仏さまと同じように見えていると気持ちも清らかに、穏やかに変わってくるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

6日

立夏 先勝心

旧3月17日

土曜

妙法蓮華経序品第一

随順行大道

「仏さまの御心に随って大道を行く」

「大道」とは仏さまの心に一致する道。

大道を行くためには大きな視点で世の中を見て、今なすべき行動をとることが必要です。

一切衆生を救おうとされる仏さまの大慈悲を素直に受け止め、仏さまの心持ちに随って行くと自然に大道を歩むことができます。

仏さまとともに大道を歩んでいるということ、を常に忘れないために日々のお勤めをするのです。そして、それが悟りへの道なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

7

日

友引 尾

旧3月18日

日曜

妙法蓮華経序品第一

合が掌しょう一いつ心しん待たい

「合掌して一心に待つ」

序品第一において、お釈迦さまは禅定に入られて一言も言葉を発することなく、眉間の白毫から光を放ち、遠い世界の修行者たちが仏になる様子を映し出しました。

その様子は、お釈迦さまの説法を待つ弟子や菩薩たちが目指す悟りへの道です。

文殊菩薩は、これからお釈迦さまが真実の教えを説き導いてくださるはずだから、合掌して一心に待つようにと皆を戒めました。

妙法蓮華經序品第一

如我所說法 唯汝能証知 世尊既讚歎 令妙光歡喜 說是法華經 滿六十小劫 不起於此座 所說上妙法

是妙光法師 悉皆能受持 佛說是法華 令眾歡喜已 尋即於是日 告於天人眾 諸法實相義 已為汝等說

我今於中夜 當入於涅槃 汝一心精進 當離於放逸 諸佛甚難值 億劫時一遇 世尊諸子等 聞佛入涅槃

各各懷悲惱 佛滅一何速 聖主法之王 安慰無量眾 我若滅度時 汝等勿憂怖 是德藏菩薩 於無漏實相

心已得通達 其次當作佛 号曰為淨身 亦度無量眾 佛此夜滅度 如薪尽火滅 分布諸舍利 而起無量塔

比丘比丘尼 其數如恒沙倍復加精進 以求無上道 是妙光法師 奉持佛法藏 八十小劫中 廣宣法華經

是諸八王子 妙光所開化 堅固無上道 當見無數佛 供養諸佛已 隨順行大道 相繼得成佛 轉次而授記

最後天中天 号曰燃燈佛 諸仙之導師 度脫無量眾 是妙光法師 時有一弟子 心常懷懈怠 貪著於名利

求名利無厭 多遊族姓家 棄捨所習誦 廢忘不通利 以是因緣故 号之為求名 亦行眾善業 得見無數佛

供養於諸佛 隨順行大道 具六波羅蜜 今見釈師子 其後當作佛 号名曰弥勒 廣度諸眾生 其數無有量

彼佛滅度後 懈怠者汝是 妙光法師者 今則我身是 我見燈明佛 本光瑞如此 以是知今佛 欲說法華經

今相如本瑞 是諸佛方便 今佛放光明 助發實相義 諸人今當知 合掌一心待 佛當雨法雨 充足求道者

諸求三乘人 若有疑悔者 佛當為除斷 令尽無有餘

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

8日

先負 箕

旧3月19日

月曜

妙法蓮華経方便品第二

じゅうさんまい

あん じょう に き

従三昧 安詳而起

「三昧より安詳として起つ」

お釈迦さまは、序品第一では一言も発せられず、「三昧」、つまり静かに身動きもせず深く瞑想をされていました。

方便品第二の冒頭で、説法を待つ聴衆の前でお釈迦さまは三昧を解き、悠然と立ち上がり、静かに舍利弗に語りはじめます。

これから始まる説法に対して、期待が膨らむ様子と緊張感が伝わってくる描写です。仏法を学ぶ姿勢として受け止めましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

9

日

仏滅 斗

旧3月20日

火曜

妙法蓮華経方便品第二

ごう しゃ り ほつ

告舎利弗

「舎利弗に告ぐ」

舎利弗は、お釈迦さまの十大弟子の筆頭で、智慧第一といわれていました。

お釈迦さまは、理解の浅い弟子たちには、これから説こうとする真実の教えが難解であると舎利弗を通して告げられます。

舎利弗はお釈迦さまの信頼厚く、「舎利弗よ」と度々呼びかけながら説法が進められます。その呼びかけは、私たち末代の凡夫にも向けられているのだと受け止めましょう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

10日

大安 女

旧3月21日

水曜

妙法蓮華経方便品第二

しよ ぶつ ちえ じん じん むりよう

諸仏智慧 甚深無量

「諸仏の智慧は甚深無量なり」

「智」は「有」（差別・個々の違い）を観る力、
「慧」は「空」（平等・個々のつながり）を観る
力を意味します。
個々の違いを主張しすぎず、全体のつながり
ばかり考えて自分を見失うこともないように、
「智」と「慧」の双方を備えているのが仏さ
まの智慧なのです。
そしてその智慧は量りしれないほど甚だ深い
ものなのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

11

日 木曜

赤口 虚

旧3月22日

妙法蓮華経方便品第二

ごちえもん

なんげなんにゆう

其智慧門

難解難入

「その智慧の門でさえ難解難入である」

甚だ深い仏さまの智慧をいきなり凡夫に教へても簡単に理解できるものではありません。

相手の理解力に合わせて、低いところから徐々に教へ、仏さまと同じ智慧に導き入れる、それが「智慧の門」すなわち「方便」です。

仏さまは私たちの能力を見定めて「方便」の教へを用意してくださいます。我々凡夫はそのやさしい「方便」の教へさえ理解できず、迷い道に入り込んでしまいがちなのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

12日

伊豆法難会

先勝 危

旧3月23日

金曜

妙法蓮華経方便品第二

ぶつ

ぞう

しん

ごん

仏曾親近

「多くの仏さまに仕えて修行を積む」

無限に近い長い年月の間に生まれ変わりを繰り返し、数えることができなほど多くの仏さまに仕えて修行を積み、ようやく仏に成れると經典には説かれています。

仏さまの教えを理解し、実践し人を導けるようになるためには相当の時間が必要です。

しかし、気が散ったり、手を抜いたりしては、時間をかける意味が薄れてしまいます。

仏に成るのはとにかく大変なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

13日

友引 室

旧3月24日

土曜

妙法蓮華経方便品第二

ゆうみよう しょうじん

みようしょう ふもん

勇猛精進 名称普聞

「一心に仏道を進み、名は普く聞こえ」

「勇猛」とは邪悪なものに対する恐れがないこと、「精進」とは迷わない心のこと。

他者からの干渉・同調圧力に影響されたり、利害得失や名誉欲にも振り回されるといつの間にか脇道に迷い込んでしまいます。

周囲の境遇に左右されず、ただ一心に仏道を進む姿が「勇猛精進」です。

その結果、仏さまに近づいて、「名称普聞」とその名も世に聞こえるようになるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

14日

先負 壁

旧3月25日

日曜

妙法蓮華経方便品第二

ずいぎしよせつ

いしゆなんげ

随宜所説 意趣難解

「最良の方法だが、その意趣は理解され難い」

奥深く尊い教えを覚った仏さまは相手の能力に応じて教えを説いてくださるのですが、私たちはその言わんとするところも容易に理解することができません。

仏さまの「方便」の説法には事実ではない譬えが用いられます。凡夫は真実と譬えの境が見極められず迷うことがあるのです。

しかし、仏さまは凡夫を導くにため「方便」が最良の方法であることをご承知なのです。

妙法蓮華經方便品第二

爾時世尊。從三昧安詳而起。告舍利弗。諸佛智慧。甚深無量。其智慧門。難解難入。一切聲聞。辟支佛。所不能知。所以者何。佛曾親近。百千萬億。無數諸佛。盡行諸佛。無量道法。勇猛精進。名稱普聞。成就甚深。未曾有法。隨宜所說。意趣難解。舍利弗。吾從成佛已來。種種因緣。種種譬喻。廣演言教。無數方便。引導衆生。令離諸著。所以者何。如來方便。知見波羅蜜。皆已具足。舍利弗。如來知見。廣大深遠。無量無礙。力。無所畏。禪定。解脫。三昧。深入無際。成就一切。未曾有法。舍利弗。如來能種種分別。巧說諸法。言辞柔軟。悅可衆心。舍利弗。取要言之。無量無邊。未曾有法。佛悉成就。止。舍利弗。不須復說。所以者何。佛所成就。第一希有。難解之法。唯佛與佛。乃能究盡。諸法實相。所謂諸

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

15日

仏滅 奎

旧12月26日

月曜

妙法蓮華経方便品第二

しゅじゅいんねん

種種因縁

こうえんごんきよう

しゅじゅひ

種種譬喩

むしゅほうべん

広演言教

無数方便

「あの手この手を使って私たちを導く仏さま」

初めて仏さまの教えを聞く人は理論だけでは理解できません。そこで「種種因縁（物事の原因や条件）」を解きほぐし、「種種譬喩（たとえ話）」を使って説明します。これが仏さまの「方便」です。

人に伝えるためには、数限りない方便を用い、たくさんの言葉が必要です。

仏さまは、常にあの手この手を使って私たちを導いてくださっているのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

16日

大安 婁

旧3月27日

火曜

妙法蓮華経方便品第二

いん どう しゅじょう

引導衆生

りょうり しよじゃく

令離諸著

「衆生を引導して、執着から離れさせる」

「著」とは執着・愛着のこと。

自分中心の考え方がこびりついて離れなくなると、別の考え方を提示されても容易に受け入れられず、道に迷ってしまいます。

暗い迷い道から引き出し、明るい悟りの道へと人々を導くのが「引導」です。

一人で悩み、暗闇の底にいるようなときにも仏さまは執着から離れさせようと手を引き導いてくださいます。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

17

日

赤口 胃

旧3月28日

水曜

妙法蓮華経方便品第二

知^ち見^{けん}波^は羅^ら蜜^{みつ}

「真実を見極め導く智慧」

仏さまが人々を執着から離れさせることができるのは、導く「知見」があるからです。

「知見」とは、すべての物事の本当の性質を見極める力です。

平等に目を向けて、それぞれの違いを認め、偏ることなく判断できる。こうした物の見方に誤りがないのが「知見波羅蜜」です。

仏さまはこの知見によって、機根に応じ、具体的な方便を説いてくださるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

18日

先勝 昂

旧3月29日

木曜

妙法蓮華経方便品第二

四し無む量りょう心しん

「慈悲喜捨の四つの心の功德は無量である、」

「如来知見 广大深遠 無量 無礙 力 無所畏」の
「無量」とは仏さまが「四無量心」を具えている
ことです。

「四無量心」とは、①慈心(人の幸福を思う心)、
②悲心(人の苦しみを取り除きたいと思う心)、
③喜心(人の幸福を共に喜ぶ心)、④捨心(見返り
を求めない心)。この慈・悲・喜・捨の四つの
心持ちは、あらゆる人々にその力が及ぶの
で、その功德は「無量」になるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

19日

友引 畢

旧3月30日

金曜

妙法蓮華経方便品第二

四し無む礙げ

「何の妨げもなく法を説く」

「如来知見 広大深遠 無量 無礙 力 無所畏」の「無礙むげ」とは妨げがないことで、仏さまは次の「四無礙」を具えています。

①法無礙(教えが完全無欠であること)、②義無礙(誰もが納得できる説明をすること)、③辞無礙(発する言葉がすべての人の心に響くこと)、④樂説(ぎょうせつ)無礙(いつでも喜んで法を説くこと)。このように何の妨げもなく法を説くのが仏さまです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

20日

仏滅 畢

旧4月1日

土曜

妙法蓮華経方便品第二

十力

じゅうりき

「仏さまが具える十種の力」

「力」とは仏さまが具える次の十種の力。

- ① 知是処非処智力(道理を見分ける力)、
- ② 知三世業報智力(業と報を知る力)、
- ③ 知諸禅解脱三昧智力(禅定を知る力)、
- ④ 知諸根勝劣智力(機根を知る力)、
- ⑤ 知種々解智力(理解度を知る力)、
- ⑥ 知種々界智力(境遇を知る力)、
- ⑦ 知一切至所智力(予測する力)、
- ⑧ 知天眼無礙智力(見えないことを知る力)、
- ⑨ 知宿命無漏智力(迷いを除く力)、
- ⑩ 知永断習気智力(不安を鎮める力)。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

21日

大安 鶯

旧4月2日

日曜

妙法蓮華経方便品第二

四し無む所しよ畏い

「ひる恐れ怯むことなく法を説く」

「如来知見 广大深遠 無量 無礙 力無所畏」の「無所畏」とは怯むことがないという意。

仏さまは次の「四無所畏」を具えています。

①一切智無所畏(一切を知り尽くしているので怯むことはない)、②漏尽無所畏(迷いがなないので怯むことはない)、③説障道無所畏(妨げがないので怯むことはない)、④説尽苦道無所畏(苦を除くためには怯むことはない)

仏さまは誰に憚ることなく法を説くのです。

妙法蓮華經方便品第二

爾時世尊。從三昧安詳而起。告舍利弗。諸佛智慧。甚深無量。其智慧門。難解難入。一切聲聞。辟支佛。所不能知。所以者何。佛曾親近。百千萬億。無數諸佛。盡行諸佛。無量道法。勇猛精進。名稱普聞。成就甚深。未曾有法。隨宜所說。意趣難解。舍利弗。吾從成佛已來。種種因緣。種種譬喻。廣演言教。無數方便。引導衆生。令離諸著。所以者何。如來方便。知見波羅蜜。皆已具足。舍利弗。如來知見。廣大深遠。無量無礙。力。無所畏。禪定。解脫。三昧。深入無際。成就一切。未曾有法。舍利弗。如來能種種分別。巧說諸法。言辭柔軟。悅可衆心。舍利弗。取要言之。無量無邊。未曾有法。佛悉成就。止。舍利弗。不須復說。所以者何。佛所成就。第一希有。難解之法。唯佛與佛。乃能究盡。諸法實相。所謂諸

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

22日

赤口 参

旧4月3日

月曜

妙法蓮華経方便品第二

禅ぜん定じょう解脱げだつ三昧さんまい

「心乱されることなく真理を極め尽くす」

「禅定」は感情を鎮め心を安定させること。

「解脱」は煩惱から解き放されること。

「三昧」は心を一点に集中し平安の境地に入ること、禅定と同義。

仏さまの智慧は、何の妨げも恐れもないので、心乱されることなく、絶対の真理を深く極め尽くすことができます。

そして、その教えを人々のために与えてくださるのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

23日

先勝 井

旧4月3日

火曜

妙法蓮華経方便品第二

巧説諸法

ぎようせつしよほう

言辞柔軟

ごんじ にゆうなん

悦可衆心

えつ か しゆしん

「巧みに、易しく説き、相手を安心させる」

仏さまは、難しい真実を巧みに方便を用い、
わかりやすい言葉で説き、聞く者に喜びの気
持ちを起こさせます。

相手の理解の度合いに応じて言葉を選び、穏
やかに語り掛けることによって相手は安心す
るのです。

真実を見極める智慧と、すべてを包み込む大
きな慈悲を持つ仏さまを見習い、相手を安心
させる語り口を身に着きたいものです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

24日

友引 鬼

旧4月5日

水曜

妙法蓮華経方便品第二

み ぞう う ほう

未曾有法

「言葉では説明できない真実の教え」

難解難入を繰り返してきてきたのは、説明が
できない、形容ができない、未だかつてない
真実の教え「未曾有の法」を得て悟りを開い
たということを伝えたかったためであつた
と、お釈迦さまは舍利弗に伝えます。

言葉では伝えられないもの、ある境地に至ら
なければ伝わらないものが存在するのだとい
うことを、私たち凡夫は信じることから始め
るしかありません。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

25日

先負 柳

旧4月6日

木曜

妙法蓮華経方便品第二

止し舎しゃ利り弗ほつ

「これ以上説くのは止めよう」

いくら説明しても、ある境地に至らなければ
わからないのだからと、お釈迦さまは舎利弗
に告げました。

しかし、お釈迦さまは単に突き放しているの
ではありません。

自分の力で苦勞を重ね、少しずつでも真実に
気づいたときの喜びを味わいながら、仏の境
地にたどり着くまで見守ってくださいるお釈迦
さまのお慈悲なのです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

26日

仏滅 星

旧4月7日

金曜

妙法蓮華経方便品第二

唯ゆい仏ぶつ与よ仏ぶつ

「仏と仏にしか理解できない教え」

真実の教えは、仏と仏にしか理解できない。

お前たち凡夫には理解できないと、お釈迦さまは舍利弗に告げました。

しかし、見方を変えれば「仏に成れば理解できる」「お前たちも仏に成れる」とお釈迦さまが伝えていることにもなります。

お釈迦さまの説法がこの後も続きます。

法華経の説法が少しでも理解できれば、私たちも仏に近づいているということです。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

27

日

大安 張

旧4月8日

土曜

妙法蓮華経方便品第二

諸法実相

しよ

ほう

じつ

そう

「すべての存在のありのままの姿」

「諸法実相」とは、存在するもの（諸法）はすべて、そこに存在しているそのまままで真実のすがた（実相）をあらわしているということです。しかし、物事を欲望という色眼鏡をかけて見てしまうと、あるがままの真実の姿を見ることができません。仏さまの物の見方を身に着けて、すべての存在をありのままに見ることができれば、迷い悩むこともなくなることでしよう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

28日

赤口 翼

旧4月9日

日曜

妙法蓮華経方便品第二

じゅう によ ぜ

十如是

「諸法実相の十の要素」

十如是の相(外形)・性(性質)・体(相や性を入れる器)・力(体による力)・作(力が及ぼす働き)は「絶えず変化するもの」であり、因(原因)・縁(条件)・果(結果)・報(影響)・は「縁によって成り立つもの」といえます。

「変化」の中で「現状」に執着して、「縁による存在」であるのに「我」を主張してしまうため、諸法実相にたどり着くことができなないのが、私たち凡夫です。

妙法蓮華經方便品第二

爾時世尊。從三昧安詳而起。告舍利弗。諸仏智慧。甚深無量。其智慧門。難解難入。一切声聞。辟支仏。所不能知。所以者何。仏曾親近。百千万億。無數諸仏。尽行諸仏。無量道法。勇猛精進。名称普聞。成就甚深。未曾有法。隨宜所説。意趣難解。舍利弗。吾從成仏已來。種種因縁。種種譬諭。広演言教。無数方便。引導衆生。令離諸著。所以者何。如来方便。知見波羅蜜。皆已具足。舍利弗。如来知見。広大深遠。無量無碍。力。無所畏。禪定。解脫。三昧。深入無際。成就一切。未曾有法。舍利弗。如来能種種分別。巧説諸法。言辞柔軟。悦可衆心。舍利弗。取要言之。無量無辺。未曾有法。仏悉成就。止。舍利弗。不須復説。所以者何。仏所成就。第一希有。難解之法。唯仏与仏。乃能究尽。諸法実相。所謂諸法。如是相。如是性。如是体。如是力。如是作。如是因。如是縁。如是果。如是報。如是本末究竟等。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

29日

先勝 軫

旧4月10日

月曜

妙法蓮華経方便品第二

ほん まつ く きよう どう
本末究竟等

「本末を徹底的に見極める」

この世に存在するありとあらゆるものは、
相・性・体・力・作・因・縁・果・報の九つ
を等しく具えています。

この九つの始まりから終わりまで（本末）を
徹底的に見極めていくことが「本末究竟等」で
あり、「諸法実相」を知ることになるのです。

仏さまは「諸法実相」を知り尽くし、私たち
を真実の道に導いてくださいます。

私たちも「本末究竟等」に努めてましよう。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

30日

友引 角

旧4月11日

火曜

妙法蓮華経序品第一

さん てん とく もん
三転読文

「平等に、個々の状況にも寄り添い、偏らず」

「十如是」を三回繰り返して読むことを「三転読文」いいます。これは、天台大師が十如是を「空・仮・中」の「三諦（さんたい）」に当てはめて読むことを提唱したことにより、

何事にもとらわれず平等に判断する「空諦」、ありのままに認識し個々に寄り添う「仮諦」、偏らず状況に応じて「中諦」、この三つの見方で「十如是」を諦らかにすることを心に言い聞かせるために「三転読文」するので。

法華経 日めくり

令和5年 癸卯

2023年

5月

31日

先負 亢

旧4月12日

水曜

妙法蓮華経方便品第二

よく じゅうせん

し ぎ

に

せつ

げ

ごん

欲重宣此義

而説偈言

「大事な内容だから繰り返し返し伝える」

「偈」とは、経典の中で詩句の形式をとり、
仏さまの教えやその徳の讃嘆を述べたもの。

「欲重宣此義 而説偈言（重ねて此の義を宣べ
んと欲して、偈を説いて言わく）」というのは、
ここまで説いてきたことを、もう一度、詩句
の形で詳しく説明するということです。

「いいですか、大事な内容だから繰り返ししま
すよ」と、学校の先生がおっしゃっていたこ
とを思い出します。

妙法蓮華經方便品第二

爾時世尊。從三昧安詳而起。告舍利弗。諸仏智慧。甚深無量。其智慧門。難解難入。一切声聞。辟支仏。所不能知。所以者何。仏曾親近。百千万億。無數諸仏。尽行諸仏。無量道法。勇猛精進。名称普聞。成就甚深。未曾有法。隨宜所説。意趣難解。舍利弗。吾從成仏已來。種種因縁。種種譬諭。広演言教。無數方便。引導衆生。令離諸著。所以者何。如來方便。知見波羅蜜。皆已具足。舍利弗。如來知見。広大深遠。無量無碍。力。無所畏。禪定。解脱。三昧。深入無際。成就一切。未曾有法。舍利弗。如來能種種分別。巧説諸法。言辞柔軟。悦可衆心。舍利弗。取要言之。無量無辺。未曾有法。仏悉成就。止。舍利弗。不須復説。所以者何。仏所成就。第一希有。難解之法。唯仏与仏。乃能究尽。諸法実相。所謂諸法。如是相。如是性。如是体。如是力。如是作。如是因。如是縁。如是果。如是報。如是本末究竟等。爾時世尊。欲重宣此義。而説偈言